11月14日(土曜日)「イエスの受難週(4)」

【新改訳 2017】

ルカ 22・14-23

「それから、(イエスは) パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。『これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。』」(19 節)

「最後の晩餐」の記事の前半です。この後に、「……杯も同じようにして言われた。『この杯は、あなたがたのために流される私の血による新しい契約です。しかし、見なさい。わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓にあります……』」と続きます。有名なダヴィンチの絵でも知られている光景です。

出工ジプトの記念である過越しの祭の食事をされる中で、 主イエスは、「神の小羊」として十字架につき、すべての人々に 罪の赦しをもたらすために、身代わりの犠牲となって血を流そ うとしていることを、重ね合わせて教えられたのでした。

今日、教会では聖餐式と呼ばれ、罪の赦しときよめ、そして、 新しいいのちの恵みを繰り返し覚える礼典として守られてい ます。決して軽視せず、感謝して受けましょう(I コリント 11・23-34 もぜひ読みましょう)。

~祈り~

主よ。最後の晩餐の記事を学びましたが、私たちそれぞれが、 聖餐式をふさわしく受けることができるように導いてください。

【学びのために】

聖餐式を英語では、Holy Communion Service と言っています。 聖なる共有、霊的交わりの式という意味です。聖餐式の理解の 一助になるのではないでしょうか。